

## 第1回クラブ活動

5月27日(水)に第1回クラブ活動がありました。本校ではクラブ活動には4年生以上が参加しています。以前は授業時間にゆとりがあったためクラブ活動の時間も多く確保することが出来ました。昭和60年頃は、一月(ひとつき)に3回実施(その頃は金曜日の6校時に設定していました)出来たこともありました。当時は、金曜日の第1週目が委員会活動、2週目以降はクラブ活動となっていましたから年間ではクラブ活動の時間は30時間近く確保出来ました。

平成6年度(確かその頃だったと思いますが)から第2土曜日が休みになり、その後、隔週で休みになり土曜日の休みが増え、平成14年度に学校完全五日制となり、年間の授業時間数は(前年度よりも)70時間も減少することになりました。その結果、学校では行事の精選が行われ、クラブ活動の時間も大きく減っていきました。

ところが、今年度から「ゆとり教育の見直し」ということで学習指導要領が改訂され、授業時間数増となりました。そのため、これまで5校時扱いの金曜日が6校時となり、その結果、本校では、長く金曜日に設定していたクラブ活動の時間を水曜日に変更しました。しかし、水曜日は中巨摩地区の学校教職員の研究会があつたり、週の中日(なかび)ということ由学校行事(修学旅行や林間学校)と重なりやすい、ということもありクラブ活動の時間を取るが大変難しくなっています。子ども達が楽しみにしているクラブ活動の時間を大切にしていきたいと思えます。

## 今年度開設クラブ

クラブ名	顧問	クラブ人数
和太鼓クラブ	古屋 廣瀬 山田	22人
図工・イラストクラブ	田村 齊藤	10人
自然科学クラブ	名取 石原	24人
家庭科クラブ	高橋 石井	24人
屋外球技クラブ	小川 志村	22人
屋内球技クラブ	松橋 青木	22人
パソコンクラブ	平賀 猪股	12人

和太鼓クラブの様子



パソコンクラブの様子



## 痛ましい事件に思う 生きる力 生き抜く力

中央大学理工学部の教授(45歳)が刺殺されるという痛ましい事件がありました。全身を何カ所も刺された手口から、当時から恨みによる犯行の見方がされていました。その容疑者が5月21日に逮捕されました。山本竜太容疑者(28歳)は「高窪先生を刃物で何回も刺し、殺したことは間違いありません」と容疑を認めています。ですが、動機については「話したくない」と供述を拒んでいるそうです。

山本容疑者は2004年3月に中央大学理工学部を卒業。殺害された高窪教授が卒業論文を指導しました。現段階ではこの両者の間にどのようなトラブルがあったか、確認されていません。捜査が進展するに従い新たな事実が浮かび上がってくることは予想されますが、現段階で思うのは次のようなことです。

- ・高窪教授に対しどんな恨みがあつたにせよ、殺すまですることだったのかな。
- ・山本容疑者はこの事件で自分の人生を、28歳という若さで閉ざしてしまった。

恨みを晴らした代償はあまりにも高価なものになったと後悔はないのかな。

前途有為な若者が短絡的な行動で自らの未来を閉ざすことは何とも残念でなりません。そんなことから、山本容疑者の行動心理に焦点を当て、どうしたらこのような悲惨な事件を防ぐことが出来たのか、考えてみたいと思います。

○犯罪に走る日本の学生の特徴として教育学者や心理学者が指摘するのは、

- ・勉強は良く出来、言われたこと、指示されたことはきちんと出来るが、自分から考え、その次の行動をする力、創造性に乏しい。
- ・解答の明確な問題は得意だが、回答が何通りもあるような少し複雑な問題の解決力が弱い。

というものです。

○山本容疑者が殺意に至る気持ちは次のようなものだったと推測されます。

- ・俺は勉強に頑張り優秀な成績で大学を卒業した。それなのに俺よりずっと怠けていた奴が良い仕事に就いている。それに比べ今の俺は毎日アルバイト暮らした。この原因は、高窪教授が俺に良い職業を紹介しなかった為だ。いつか俺はあいつを殺し、この恨みを晴らしてやる。

その時、心のどこかに、次のように考えるもう1人の自分がいたでしょうか。

◎いいじゃないか。まだ俺は28歳だ。これから先、何が起きるか分からない。十年先には、逆に俺が奴らのずっと先を走っているかもしれない。

また、例え、この俺の真価が分かってもらえなくても、それがこの世なのかもしれない。むしろ、この世の面白さは、本物が偽物の陰に隠れて、その真価を發揮できない所にあるのかもしれない。否(いや)俺が言っているそのことさえ、まだ本当の所は分からない。28歳の自分に何が分かっているというのだ。まだまだ人生はこれからだ。再チャレンジはいくらでも出来る。

そのように考える自分が居れば、山本容疑者も殺人という常軌を逸した行為には走らなかったことでしょう。このように考えると、私たちが自分自身の人生をより良く生きるために何が必要か、が見えてきます。

○多面的な見方が出来ること

・今の自分の状態を別の角度から見るといふ、多面的な見方を持つ力が必要です。困っている自分を少し離れた所から見つめ、自分に話しかけるもう1人の自分の姿を想像して下さい。

○夢や希望を持ち続けること

・いかに困難な状況でも、未来を信じ、夢を持ち続けることで、人はその苦境を乗り越えることができます。例え、その困難を克服することが出来なくとも、その取り組みを通し人間的に成長することができます。

○相談する人を持つ

・自分1人で考えていると、私たちは往々にして袋小路に陥ることがあります。そのような時、周りの人からのちょっとした助言で途が開けることがあります。自分の周りにそんな相談相手がいること、もし適当な人がいない場合は、精神科医や臨床心理士に相談するのも良い方法です。